

第1章 はじめに 全体版P1～3



1-1 プロジェクトの背景と目的 全体版P1

本プロジェクトの計画地である「甲突川左岸緑地と甲突川右岸緑地、その周辺の水辺を含む一体的な空間(以下、「甲突川河畔」という。)」は、鹿児島市の中心部に位置し、春には2km以上にわたって桜が咲き誇り、市内有数のお花見スポットとして多くの市民に親しまれています。

この桜は、昭和40年代に各種団体等から寄贈を受けたほか、50年代に、「公益社団法人 鹿児島青年会議所」(以下、「鹿児島JC」という。)が中心となり、甲突川河畔に「市民の憩いの場を作ろう」という思いのもと、様々な方々の協力を得て、「千本の桜」を植樹したことがきっかけとなっています。

しかし、この植樹活動から約50年が経過し、桜全体の老木化や病害虫被害などの影響を受け、令和5年度末時点の桜の本数は約430本まで減少しており、歴史ある「千本桜」の衰退や倒木などの危険性が懸念されています。

一方、本市の中心市街地においては、「にぎわいあふれる彩り豊かなまちづくり」を推進しており、甲突川河畔においても更なるにぎわい創出が求められています。

このような状況を踏まえ、本プロジェクトでは、歴史ある千本桜の再生を行い、「市民の憩いの場」としての機能を継承し、新たな桜の名所として甲突川河畔の魅力をさらに高めるとともに、緑地空間の充実を含めた環境整備を進めることで、通年にわたるにぎわいを創出し、まち全体の活力向上へと繋げることを目的としています。



本プロジェクトの対象位置図



甲突川河畔の桜並木

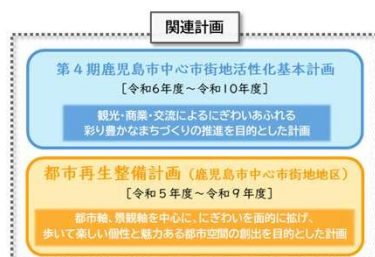
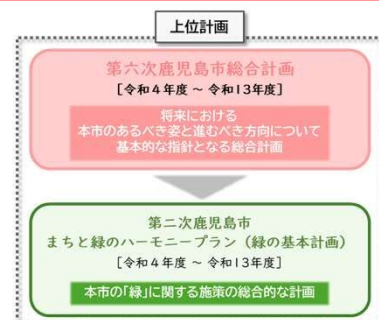


鹿児島JCによる桜の植樹祭の様子

写真出典：かごしま市民のひろば 平成25年3月号

1-2 プロジェクトの位置づけ 全体版P2

本プロジェクトは、上位計画である「第六次鹿児島市総合計画」や「第二次鹿児島市まちと緑のハーモニープラン」と整合を図るとともに、関連計画である「第4期鹿児島市中心市街地活性化基本計画」や「都市再生整備計画(鹿児島市中心市街地地区)」と連携を図りながら進めることとします。



第2章 現状と課題 全体版P4～15



2-1 甲突川河畔の概況 全体版P4

甲突川河畔は、本市のお花見スポットとして親しまれているほか、南洲橋から望む「桜並木」や「甲突川」、そして「桜島」の生み出す眺望は、本市を代表する都市景観を形成しています。

また、高見橋から高麗橋間及びその周辺には、「西郷隆盛・従道誕生地」や「大久保利通生い立ちの地」など歴史的資源が点在しているほか、「維新ふるさとの道」として整備されており、歴史に想いを馳せながら散策を楽しむことができます。

さらに、平田橋から高見橋間では、春と秋に「木市」が、冬には「破魔投げ」が開催されるなど、伝統的なイベントが行われています。

加えて、甲突川河畔には、桜以外にも、クスノキなどの樹木が植栽され、緑陰の中で散歩やジョギングを楽しむ人々が見られるほか、河川では観光船やSUP、カヤックなど水辺を活かしたアクティビティが行われており、「市民の憩いの場」としての機能も果たしています。



南洲橋からの景観



大久保利通生い立ちの地

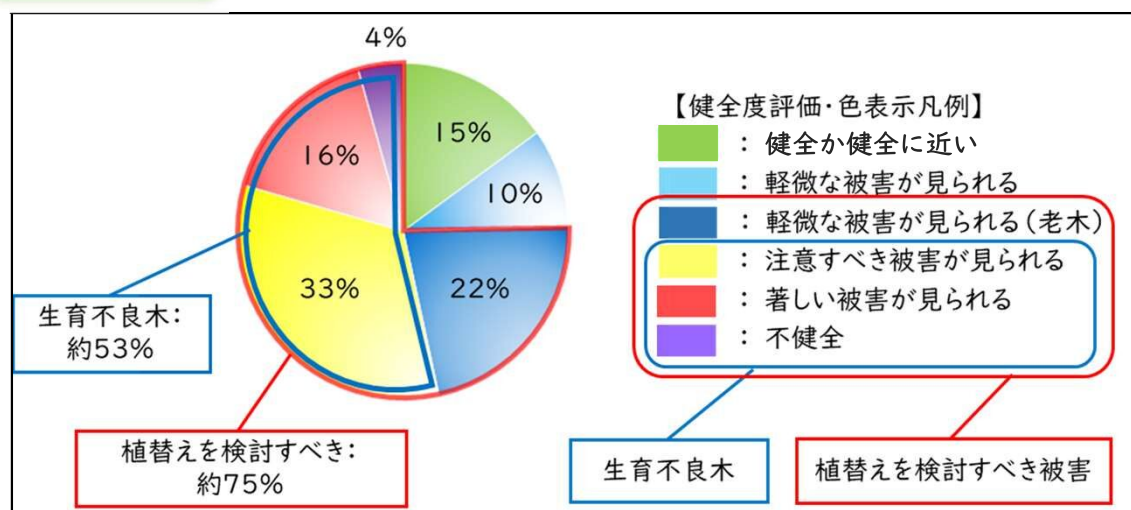
2-2 桜の樹木診断結果 全体版P5

桜の生育状況を把握するため、令和5年度に「樹木診断」を実施しました。

診断の結果、桜全体の約75%において、老木化や病虫害被害等が確認され、“植替えを検討すべき状態”であることが明らかとなりました。

この要因としては、植栽から年数が経過していることや生育環境・土壌環境の悪化などが考えられるため、再整備と合わせて、これらの改善が必要です。

【診断結果】



2-3、2-4 甲突川河畔及び周辺の現況、市民意向調査結果 ☞ 全体版P6~10

甲突川河畔及び周辺の現況、甲突川河畔に対する市民意向調査の結果を以下に整理します。

■桜など樹木に関連する事項

- ・桜の生育不良、樹木の生育環境の悪化
(老木化、病虫害被害、腐朽、踏圧、大木化等)
- ・樹木の大木化による周辺環境や景観等への影響
- ・桜と緑で囲まれた憩い空間の形成

■その他の事項

- ・歴史を感じられる空間の形成
- ・水辺を活かしたアクティビティの実施
- ・こどもたちが集まる遊び場の形成

■緑地や施設に関連する事項

- ・グラウンド広場における日常的な利用者数の低迷
- ・加治屋町1番街区市街地再開発事業の計画
- ・屋外プールの老朽化と短期間利用
- ・オープンテラスや隣接する「ナポリ通り」との一体性の欠如
- ・緑地内の遊具や東屋、ベンチなどの老朽化

■市民意向調査結果(回答数の多いもののみ記載)

- 来訪目的 ⇒ 散歩・イベントなど幅広い目的で利用
- 来訪したことが無い理由
⇒ イベント情報の不足、駐車場不足、魅力不足
- 良い点 ⇒ 多目的利用が可能、
桜並木が美しい、BBQが可能
- 悪い点 ⇒ 夜間照明の不足、歩きにくい園路
- 今後必要な整備 ⇒ 休憩施設の設置、
四季を感じる植物の植栽

2-5 課題の整理 ☞ 全体版P11~15

現況を踏まえ、以下の通り、5つの課題に分け整理します。

課題1 桜の衰退、桜の名所としての魅力低下

- 1-1. 桜の老木化や病虫害被害、ソメイヨシノの品種特性
- 1-2. 桜の生育環境の悪化
- 1-3. 桜を惹き立てる魅力的な空間の不足

課題2 大木化した樹木による様々な問題の発生

- 2-1. 樹木の大木化による緑地内や周辺環境への影響
- 2-2. 桜への被圧や桜並木の分断

課題3 年間を通じた魅力的なにぎわい空間の不足

- 3-1. 花見期間やイベント時以外の利用者数の低迷
- 3-2. 周辺の各にぎわい拠点間との回遊性の不足

課題4 憩い空間としての快適性の低下

- 4-1. 遊具や施設、園路などの老朽化
- 4-2. 駐車場や夜間照明の不足
- 4-3. こどもたちが楽しめる遊び場の不足
- 4-4. 地球温暖化による快適な憩い空間の阻害

課題5 千本桜を守り育てる取組の不足

- 5-1. 持続可能な維持管理体制の不足

第3章 再整備のコンセプト 全体版P16～22



3-1 基本理念 全体版P16

課題を踏まえ、整備の方向性を定めるため、以下の基本理念を設定します。

基本理念

千本桜が織りなす
魅力あふれる にぎわいと憩い空間の創出
 ～ひと・まち・未来へつながる 桜の名所に～

千本桜の再生を行い、新たな桜の名所として、将来にわたり魅力的な空間を創出するとともに、園路整備や新たな賑わい施設の整備など緑地の整備を進め、活気あふれるにぎわい空間や心休まる憩い空間を創出することで、甲突川河畔を軸に人々の回遊性を向上させ、まち全体への活力向上へ繋げることを目指します。

3-2、3-3 施策の体系、基本施策 全体版P17～22

基本理念をもとに、以下に基本方針と基本施策を設定します。

基本方針

基本施策

【基本方針1】

千本桜が織りなす
 魅力あふれる
 空間の創出

- 【施策1】 老木化が進行した桜や生育不良な桜の植替
- 【施策2】 ソメイヨシノに代わる新たな桜の品種の導入
- 【施策3】 河川空間や眺望を活かした桜の再配置と充実
- 【施策4】 開花時期の異なる様々な品種の桜の導入
- 【施策5】 桜をはじめとした樹木が健全に育つための環境整備

【基本方針2】

いつでも
 訪れたくなる
 にぎわいと
 憩い空間の創出

- 【施策6】 民間活力導入の検討
- 【施策7】 いつでも訪れたくなる高質空間の創出
- 【施策8】 利用者ニーズや安全性に配慮した緑地の整備
- 【施策9】 地球温暖化などの気候変動への対応

【基本方針3】

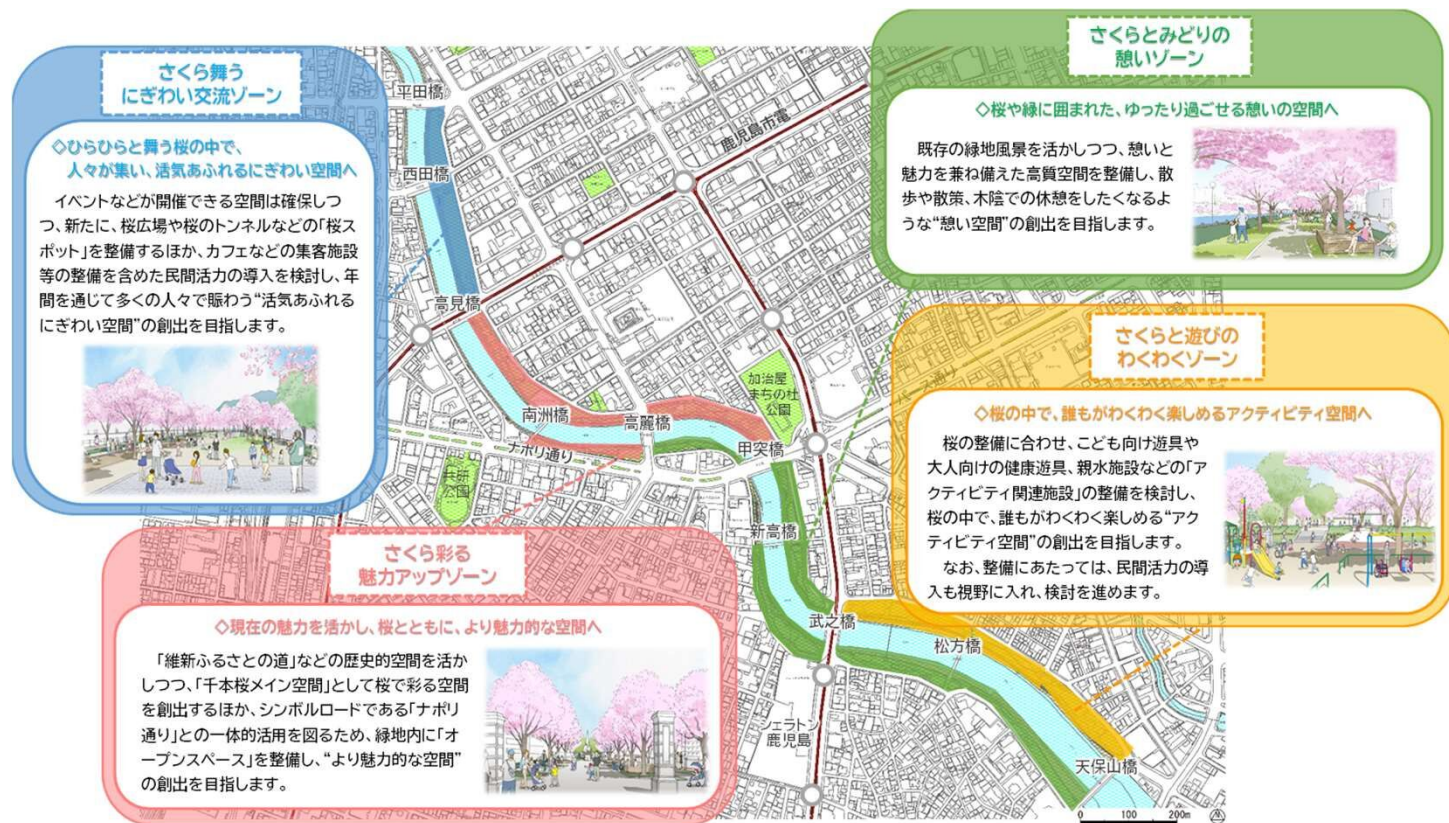
千本桜を
 守り育てる
 持続性のある
 仕組みづくり

- 【施策10】 守り育てる千本桜の維持管理・保全方法の検討
- 【施策11】 間引きした樹木の有効活用の推進
- 【施策12】 市民や事業者等との協働による千本桜の継承、千本桜や甲突川河畔への愛着醸成に資する取組の推進

第4章 再整備のイメージ 全体版P23～33

4-1 ゾーニング 全体版P23

基本方針や基本施策を踏まえ、ゾーニングを以下の通り設定します。

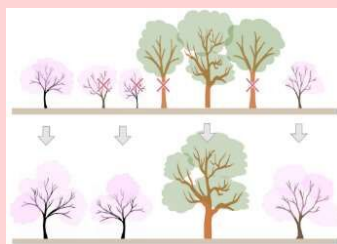


4-2 全エリア共通の整備方針 全体版P24～25

全エリアにおける主な整備方針を以下に示します。

■桜をはじめとした樹木の生育環境改善に関する整備

1. 生育不良な桜の植替
2. 樹木の間引き
3. 土壌改良の実施
4. 踏圧対策の実施



■桜の配植に関する整備

1. 適正間隔(概ね6～8m)での桜の植栽
2. 既存の桜の活用と更新
3. 桜の充実と景観演出

■桜の品種に関する整備

1. 他品種への転換検討
2. 開花時期の分散による花見期間の長期化
3. 既存のソメイヨシノの活用と品種更新

■四季を彩る植物の植栽

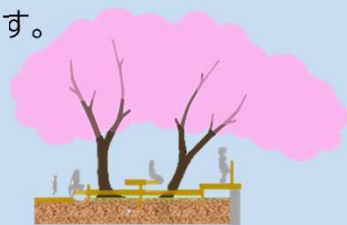
アジサイやサルスベリといった四季を彩る植物を要所に配置し、年間を通じて魅力的な空間を創出します。



■夜間照明や園路、休憩施設の整備

●夜間照明や休憩施設の再整備・増設により、快適性の向上を図ります。

●老朽化した園路の快適性向上に向け、透水性舗装などの導入を検討します。

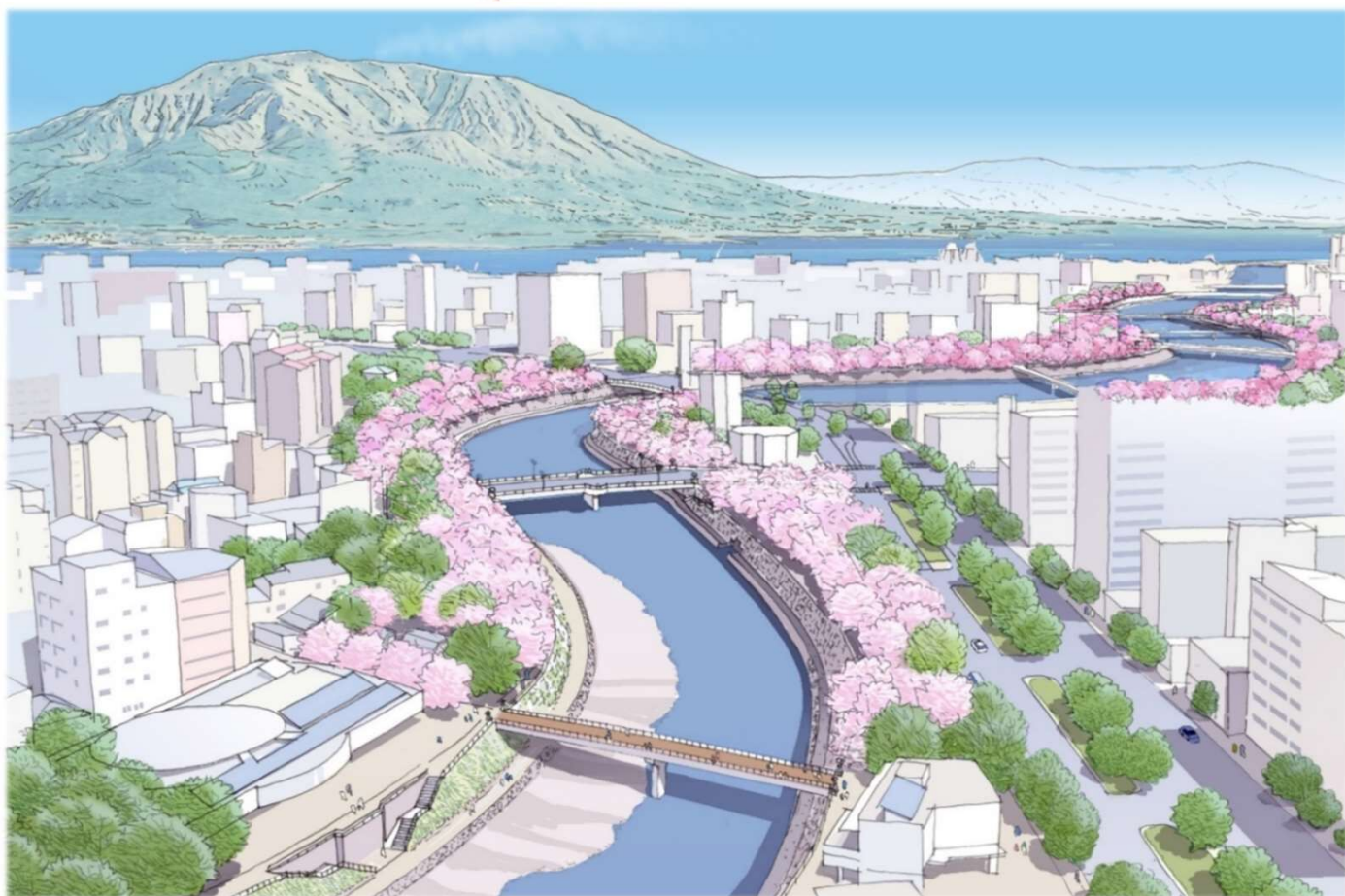


桜の品種マップ



※記載の品種はあくまで参考例であり、導入する品種については今後の検討を踏まえ、選定いたします。

鳥瞰パース



4-3 各エリアの整備方針 全体版P26～32

全エリアを上流・中流・下流の3区分に分け、各エリアにおける主な整備方針及び、整備後の樹木配置について、基本計画図に示します。

(1) 上流エリア基本計画図（平田橋～南洲橋）



(2) 中流エリア基本計画図（南洲橋～武之橋）



※各イメージパスは全体版をご覧ください。

※各種図面・計画内容は、今後の進捗状況により、変更等が生じる場合がございます。

(3)下流エリア基本計画図（武之橋～天保山橋）



第5章 再整備のスケジュール 全体版P34

本プロジェクトの上位計画の目標年度を踏まえ、令和13年度までの全面供用開始を目指し、ゾーンごとに整備を進めていきます。

なお、本スケジュールは、概ねの見通しを示しているものであり、今後の財政状況や進捗等を踏まえ、適宜見直しを行います。

ゾーン名	令和8年度	令和9年度	令和10年度	令和11年度	令和12年度	令和13年度
さくら彩る魅力アップゾーン	測量・基本設計	実施設計	植栽・基盤等工事	-	-	-
さくらとみどりの憩いゾーン	測量・基本設計	-	実施設計	植栽・基盤等工事	-	-
さくら舞うにぎわい交流ゾーン	測量・基本設計	-	-	実施設計	植栽・基盤等工事	-
さくらと遊びのわくわくゾーン	測量・基本設計	-	-	実施設計	植栽・基盤等工事	-

第6章 今後の展開 全体版P35～36

再整備と合わせ、今後展開すべき主な取組を以下に示します。

■千本桜を育み、守り続ける仕組みづくり

(1)千本桜保全管理計画の作成

本市の気候・風土や甲突川河畔の特性に適した、本市独自の「千本桜保全管理計画」の作成を検討します。

(2)持続可能な保全管理体制の構築、財源確保への取組

保全管理にあたっては、地域で気軽に参画できる仕組みづくりを検討するほか、多様な方法による財源確保に向けた体制づくりを検討します。

■千本桜や甲突川河畔に対する愛着醸成への取組

(1)千本桜に対する愛着醸成の取組

千本桜に関する普及啓発、情報発信を行うことで、地域全体で千本桜を守っていく意識の向上を図ります。

(2)甲突川河畔に対する愛着醸成の取組

甲突川河畔の利用促進に向けた普及活動を行い、市民が日常的に訪れたくなる場所として、更なる愛着の醸成を図ります。

■甲突川河畔を軸とした回遊性の向上、周辺環境への波及

再整備後の甲突川河畔の利用促進に向け、多様なプロモーションを展開し、にぎわい創出を図ります。

また、Park-PFIなど民間活力の導入を検討し、甲突川河畔の価値を高め、甲突川河畔を軸とした回遊性の向上を図ります。